

冬季の省エネ・節電に取り組みましょう

～平成25年度冬～

冬は、暖房の使用により、夏と並んで一年で最も電力の需要が大きくなる季節です。今冬は、九州電力管内でも、安定供給に最低限必要とされる予備率3%以上を確保できる見通しです。しかし、大規模な発電所トラブルが発生した場合、安定供給ができない可能性が懸念されます。県民の皆様におかれましても、無理のない範囲で、省エネ・節電に御協力いただきますようお願いいたします。

※健康や安全には十分配慮して、無理のない節電をお願いします。

節電のポイント

○ 電力需要が大きい時間帯の電力使用量を減らす

○ 発電した電力は貯めておくことができません。

発電所では、常に消費量に応じた電力を発電し、供給を続けています。

もし、供給している電力よりも多くの電力を一度に使用した場合、大規模な停電がおこるおそれがあります。

電力使用量が、発電所の供給能力を超えないように、電力需要が大きくなる時間帯の電力使用量を減らすことが大切です。

○ 冬期の電力使用のピークは、夏期（14時頃）と異なり、朝・夕を中心に長時間（平日の8時頃から21時頃まで）となる傾向があります。

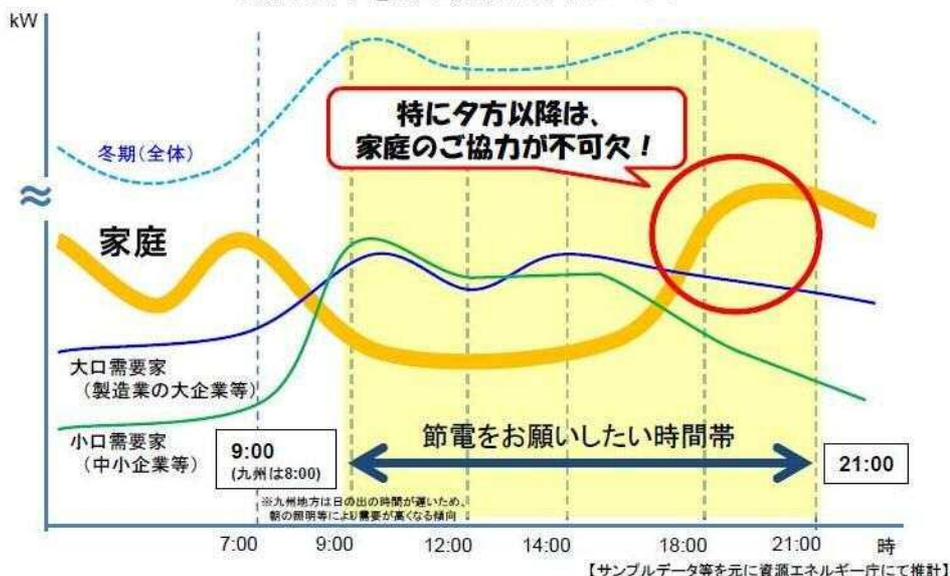
重ね着をして室温20℃を心がける、電化製品を使う時間をずらせるものはできるだけ他の時間帯に使用するなど御協力ください。



○ 電力全体の使用量を減らす

電力の使用量全体が減れば、発電のために使用する石油やガスなどの燃料を節約でき、また、二酸化炭素排出量を減らすことができます。

冬期平日の電気の使われ方(イメージ)



家庭の節電

○ 家庭での電力消費の割合

家庭で、冬の夕方（19時頃）に、多く電力を消費している電気製品は、エアコン（30%）、照明（13%）、冷蔵庫（11%）、テレビ（6%）などです。
これらの家電を上手に使うことで、効果的に節電することができます。

○ 節電メニュー

ご家庭で実施できるものをチェックして、以下を目安にご協力をお願いします。
（それぞれのご事情のもと、無理のない範囲でご協力ください。）

節電メニュー		節電効果		チェック
		エアコン有	エアコン無	
エアコン	重ね着などをして、室温20℃を心がけましょう。	7%	—	
	窓には厚手のカーテンを掛けましょう。	1%	—	
照明	不要な照明をできるだけ消しましょう。	4%	6%	
テレビ	画面の輝度を下げましょう。	標準→省エネモードに設定し、 使用時間を2/3に減らした場合	2%	3%
	必要な時以外は消しましょう。			
冷蔵庫	冷蔵庫の設定を「弱」に変えましょう。	1%	2%	
	扉を開ける時間をできるだけ減らしましょう。			
	食品をつめこまないようにしましょう。			
ジャー炊飯器	早朝にタイマー機能で1日分をまとめて炊きましょう。	1%	2%	
温水洗浄便座(瞬間式)	便座保温・温水の設定温度を下げましょう。	1%未満	1%	
	不使用時はふたを閉めましょう。			
待機電力	リモコンの電源ではなく、本体の主電源を切りましょう。	1%	2%	
	長時間使わない機器はコンセントからプラグを抜いておきましょう。			

※夕方ピーク時の消費電力 エアコンを使用する家庭：約1,400W ガス・石油ストーブ等を使用する家庭：約1,000w（資源エネルギー庁推計）

その他の節電メニュー	
暖房機器	電気カーペットは人のいる部分だけを温めるようにしましょう。
	エアコンのフィルターを定期的（2週間に一度程度が目安）に掃除しましょう。
	扇風機やサーキュレーターで部屋の上部の温度を循環させましょう。
	こたつは、上掛けなどを活用し、暖気を逃がさないようにしましょう。
電気ポット	お湯はコンロで沸かし、ポットの電源は切りましょう。
洗濯機	容量の80%程度を目安にまとめ洗いをしましょう。

節電時に注意していただきたいこと

- ガス・石油ストーブ等を使うときは、窓を開けるなどして必ず換気。（空気が不足すると一酸化炭素が発生します。）
- 洗濯物や布団などはストーブの近くには置かない。（火災の原因となることがあります。）

経済産業省「冬季の節電メニュー（ご家庭の皆様）」より

事業所の節電

経済産業省が、①オフィスビル、②卸・小売店、③食品スーパー、④医療機関、⑤ホテル・旅館、⑥飲食店、⑦学校、⑧製造業の8業種について、業種別の節電メニューを紹介しています。

〔冬季の節電メニュー（事業者の皆様）〕 http://www.meti.go.jp/setsuden/pdf/131101/131101_01f.pdf）

事業所で実施できるものをチェックして、無理のない範囲でのご協力をお願いします。

※生活・健康や経済活動に支障のない範囲でのご協力をお願いします。

※節電を意識しすぎるあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものとならないようご注意ください。

オフィスビルの例

○ 事業所の電力消費の割合

電力消費のうち、空調用電力が約28%、照明が約33%、OA機器（パソコン、FAX、プリンタ、コピー機）が約21%を占めます。

これらで電力消費の約82%を占めるため、これらの分野における節電対策が効果的です。

○ 節電メニュー

節電メニュー		節電効果	チェック
照 明	執務エリアの照明を半分程度間引きする。	8%	
	使用していないエリア（会議室、廊下等）は消灯を徹底する。	3%	
空 調	テナントは空調スイッチを切り、オーナーはビル全体が適切な温度になるように調整を行う等、適切な温度管理を行う。 (3℃下げた場合)	4%	
	使用していないエリアは空調を停止する。	1%未満	
	室内のCO2濃度の基準範囲内で、換気ファンの一定時間の停止、または間欠運転によって外気取り入れ量を調整する（外気導入による負荷を減らすため）。	4%	
	夕方以降はブラインド、カーテンを閉め、暖気を逃がさないようにする。	1%	
	熱源機（ガス熱源は除く）の温水出口の温度を低めに設定し、熱源機ヒートポンプ等の動力を削減する。	1%	
	空調機器の一斉の起動を避ける。（運転時間前倒し、フロア毎の時間調整等） (1時間程度の効果)	4%	
OA機器	長時間席を離れるときは、OA機器の電源を切るか、スタンバイモードにする。	2%	

※記載している節電効果は、建物全体の消費電力に対する節電効果の想定割合の目安です。

その他の節電メニュー	
照 明	昼休みなどは完全消灯を心掛ける。
	従来型蛍光灯を、高効率蛍光灯やLED照明に交換する。
空 調	フィルターを定期的に清掃する（2週間に1回程度）。
	暖房と冷房の同時使用による室内混合損失を避ける。
コネクタ	ハロゲンヒーター等の暖房器具を個人で使用しない。
	温水洗浄便座は保温・温水の温度設定を下げ、不使用時はふたを閉める。
	エアタオル等のプラグをコンセントから抜く。
節電啓発	ビル全体の節電目標と具体的アクションについて、関係全部門・テナントへ理解と協力を求める。
	節電担当者を決め、責任者と関係全部門・テナントが出席したフォローアップ会議や節電パトロールを実施する。
	従業員やテナントに対して、家庭での節電の必要性・方法について情報提供を行う。

今冬の節電へのご協力をお願い

～平成25年11月経済産業省「冬季の節電メニュー」より～

今冬、九州電力管内でも安定供給に最低限必要とされる予備率3%以上を確保できる見通しです。他方、大規模な発電所のトラブルが発生した場合、安定供給ができない可能性が懸念されます。

無理のない範囲での節電のご協力をお願い申し上げます。

九州電力管内の節電実施期間・時間帯

12月2日(月)から3月31日(月)までの平日(12/30,12/31,1/2及び1/3を除く)
9:00-21:00(九州は8:00-21:00)

数値目標なしの節電*

※節電をお願いする期間・時間帯において、無理のない範囲での節電をお願いします。

※数値目標なしの節電の目安の一つとしては、平成22年度の使用最大電力(kW)の▲4.1%(九州電力管内で定着節電分として見込まれている値)です。

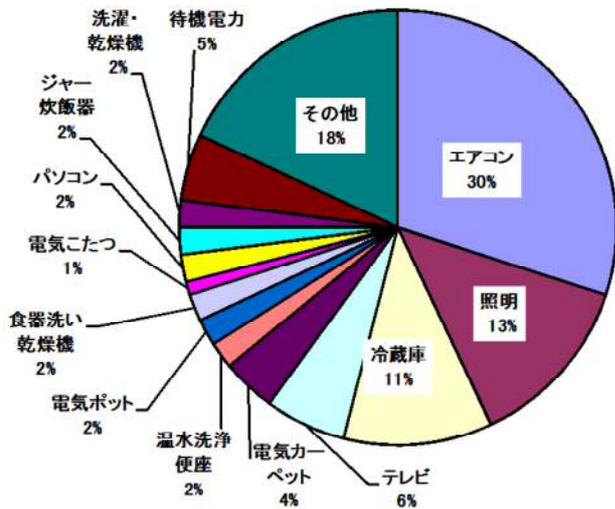
●九州電力管内の事業所Aの例

平成22年度の使用最大電力(kW)の実績値 5,000kW×▲4.1%=4,795kW

家庭・オフィスビルにおける冬の電力消費内訳

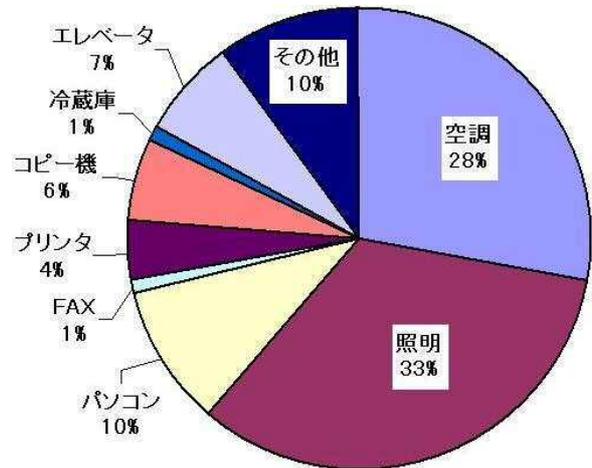
○家庭の電力消費の割合

家庭ではエアコン、照明、冷蔵庫、テレビに多くの電気が使われています。



○オフィスの電力消費の割合

空調用電力が約28%、照明が約33%、OA機器(パソコン、コピー機等)が約21%を占めます。



【資源エネルギー庁推計】

○政府の節電ポータルサイト「節電.go.jp」(内閣官房, 経済産業省)

<http://www.setsuden.go.jp>

○経済産業省ホームページ

<http://www.meti.go.jp/setsuden/index.html>

○節電・電力需給に関するお問い合わせ(経済産業省)

TEL. 03-3501-1511(代表)